

令和 2 年度  
第 2 回 明治記念大磯邸園有識者委員会  
議事要旨

【日時】 令和 2 (2020) 年 12 月 11 日 (金) 14:00~16:00

【場所】 ビデオ会議

【出席委員】

委員：小野委員長、栗野委員、坂井委員、水沼委員

行政委員：栗原委員、野村委員、岡野委員、関矢委員

【会議の概要】

1. 議事

(1) 旧滄浪閣エリア（庭園）の設計について

委員) 旧滄浪閣と西園寺別邸跡の間にある町道は、今の雰囲気を残しながら、邸園内の動線として一体的に利用できるようにしてほしい。

事務局) 町道の起伏や砂の地面は可能な限り残すようにし、邸園の園路として一体的に整備することとしたい。

委員) 邸宅から庭園に続く既存の階段や空池は、年代不明のため残すとのことだが、歴史的な価値は検証することはできないのか。

事務局) 一部、明治期にまで遡る可能性があるものの、価値を明らかにすることは難しい。このため、来園者の歩行に支障がないよう補修しつつも、基本的には、現状を残しながら活用することとしたい。

委員) 階段の一部には鎌倉石が用いられており、空池と共に、近代（明治期頃）に施工された可能性が否定できないことから、清掃を行った上で構造等の調査をした方が良い。

委員) 古写真を見るに、四賢堂自体は周辺よりも高い位置にあるように思える。伊藤邸時代の四賢堂の役割を考えると、設計案よりも高い位置にある方が自然な気がする。

委員) 四賢堂跡周辺のデザインは、通過交通利用と滞在利用のバランスを考えると、C案とD案の中間あたりが良いと思う。四賢堂跡は、高さをどうするのかを含め、使われ方の観点から再考してほしい。他方、梅子夫人の花庭の再現ゾーンは、再現するという前提に立てばC案をベースに整備を進めていく方向でよいと思う。

委員) 駐車場内に、町道と並行して南北方向に園路が新たに設けられているが、必要か。駐車したら、新築エントランス方向の園路に横断してしまうのでは。

事務局) 安全面から必要と考えている。その他のご意見については、ご指摘を踏まえ、デザインを再考してまいりたい。

(2) 西園寺別邸跡エリア（庭園）の設計について

委員) 邸宅と邸宅前面の芝庭の間に設ける園路は、邸宅利用や景観に配慮して、舗装や線形を検討した方がよい。

事務局) ご指摘を踏まえ、引き続き検討する。

委員) 池田邸時代は広範囲に芝庭が広がっていたことからすれば、芝庭の中に樹木を残す必要はあるのか。

事務局) 樹高も大きいことから、緑陰として残すことを想定しているが、今後のサウンディング調査において民間事業者から活用とともに樹木についても意見があれば、それも含め、具体的にどうするかは検討していきたい。

委員) 邸宅周りのヒマラヤスギや、樹形が乱れているカイズカイブキ、南側の石垣に影響している樹木は、倒木した際に邸宅等の建造物へ影響を与えるため撤去が望ましい。

事務局) ご指摘を踏まえ、安全性の面から撤去の方向で検討したい。

(3) 明治記念大磯邸園の管理運営の進め方について

委員) サウンディング調査際の民間事業者の検討事項として、地域連携・地域還元についても追加すると良いのではないかと。

事務局) ご指摘を踏まえ、項目として追加する。

委員) 邸園の活用の一環として、今後、様々な持込イベント等が考えられるが、今後、受入れの基準等を設ける必要があるのでは。

事務局) 基本的には、本邸園基本計画の基本方針に基づき、判断をすることになると思うが、具体的な基準等については今後、検討していきたい。

委員) 若者に歴史を学んでもらうためには、ソフト面の取組を行う必要がある。AIの導入や、大磯郷土資料館の学芸員の活用などを含め、大磯町全体を使った活用提案を求めてほしい。

事務局) 本邸園の想定来園者層を踏まえつつ、様々な世代が歴史をわかりやすく学べるよう、サウンディング調査等でも幅広く意見を求めたいと思う。

委員) 文化財を次世代に継承していくことは重要なので、サウンディング調査では、邸宅だけに負荷がかからないよう、庭園も含めて一体的な活用の提案を得るようにしてほしい。

い。また、本邸園や歴史的建造物の保存等の機運を醸成する観点から、修復等のプロセスから、学生等の若者が参加できるような仕掛けも検討してもらいたい。

委員) 活用の一環として、フィルムコミッションとの連携なども検討してもらいたい。

委員) 必ずしも常に何かに活用しなくてはいけないということではないと思う。もともとは別荘地だったという歴史も踏まえつつ、落ち着いた場所にならないよう留意していただきたい。

事務局) ご指摘を踏まえ、引き続き取組を進めてまいりたい。

以上